

2008 年度

科目名 スポーツ運動学	対象学科・学年 文学部全学科 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 安田 正純
授業テーマ 人間の有機体の運動系の諸機能の成り立ちや法則的な発達過程の基礎的認識		
授業の概要と目標 スポーツ運動学は教育的視点を多く含み、スポーツを指導する指導者が内在する法則性と一致させながら、運動発達の過程に対して積極的に働きかけていけるようにするための基礎的認識を提供するものである。スポーツの運動理論がスポーツ運動の本質、その発達や現象形態、因果関係や条件・発生的関係について諸認識を統合し、実践的教育活動に効果的に利用されることを意味している。本授業は前記に示したスポーツ運動の実践の促進と、より高い段階に引き上げるための知識を習得する。		
評価方法 出席率、受講態度、筆記試験、による評価		
テキスト	著者	出版社
参考書 スポーツ運動学序説 マイネル スポーツ運動学	著者 朝岡 正雄 クルトマイネル著 金子 明友 訳	出版社 不味堂出版 大修館書店
授業スケジュール・内容 1、 スポーツ運動学の成立と展開 2、 スポーツ運動研究の時代背景 3、 19 世紀・20 世紀における運動問題と課題 4、 スポーツ運動学の対象領域 5、 スポーツの運動経過における本質的諸カテゴリー 1. 運動の局面構造 2. 運動リズム 3. 運動伝道 4. 流動 6、 スポーツの運動経過における本質的諸カテゴリー 5. 運動の弾性 6. 運動の先取り 7. 運動の正確さ・調和 7、 運動系における学習の概念とスポーツ達成力の構造 8、 体力トレーニングの問題点 9、 技術トレーニングの今日的課題 10、 運動指導をめぐる諸問題 11、 運動学習の教育的価値 12、 運動学習の特性、運動学習位相の展開 13、 運動指導の前提条件 14、 スポーツ運動学の現状と課題 15、 まとめ・記述試験		